

薬剤感受性検査のブレイクポイントならびに 感受性カテゴリー内容変更/一部訂正とお詫び

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のお引き立てをいただき、厚く御礼申し上げます。

さて先般、「No. 23-127a (全) 薬剤感受性検査のブレイクポイントならびに感受性カテゴリー内容変更のお知らせ」および「No. 23-133a (全) 薬剤感受性検査のブレイクポイントならびにカテゴリー内容変更期日延期のお知らせ」にて、2024

年2月1日受付分から一般細菌薬剤感受性検査の判定基準ならびに感受性カテゴリー内容の変更をご案内させていただいておりましたが、内容に一部誤りがございました。

謹んでお詫び申し上げますとともに、下記の通り訂正させていただきます。

敬具

記

■訂正内容

訂正箇所	正				誤			
【変更例3】 の変更前	変更前				変更前			
		① <i>Escherichia coli</i> (ESBL)				① <i>Escherichia coli</i> (ESBL)		
	薬剤名	MIC	B. P	カテゴリー	薬剤名	MIC	B. P	カテゴリー
	PIPC	64	16/128	I	PIPC	64	16/128	I
	CAZ	8	4/16	※ I	CAZ	8	4/16	※ S

※部分のカテゴリーを訂正しました。

【変更例3】の説明文追加(下線部)

感染対策の観点から、ESBLのペニシリン系及びセファロスポリン系薬剤のカテゴリーは、全てRに変換して報告致します。しかし、変換をご希望されない場合はご連絡下さい。

※裏面に訂正後の【変更例】を改めて示します。

※ 部分が変更箇所です。

【変更例 1】

変更後

① <i>Acinetobacter baumannii</i>			
薬剤名	MIC	B. P	カテゴリー
FRPM	1		

変更前

① <i>Acinetobacter baumannii</i>		
MIC	B. P	カテゴリー
1	-/-	S



カテゴリーを参考値としてお返していましたが、エビデンスのしっかりとした薬剤のみをお返します。
また、ブレイクポイントの設定のない薬剤は『-/-』と表記していましたが、空欄となります。

【変更例 2】

変更後

① <i>Streptococcus agalactiae</i> (GBS)			
薬剤名	MIC	B. P	カテゴリー
CLDM/EM			

変更前

① <i>Streptococcus agalactiae</i> (GBS)		
MIC	B. P	カテゴリー
>0.5	-/-	



CLDM/EM は誘導耐性検出用薬剤の為、今後報告致しません。

【変更例 3】

変更後

① <i>Escherichia coli</i> (ESBL)			
薬剤名	MIC	B. P	カテゴリー
PIPC	64	16/128	R
CAZ	8	4/16	R

変更前

① <i>Escherichia coli</i> (ESBL)		
MIC	B. P	カテゴリー
64	16/128	I
8	4/16	I



ESBL (基質特性拡張型βラクタマーゼ)のペニシリン系及びセファロsporin系薬剤のカテゴリーは、全てRに変換して報告致します。しかし、変換をご希望されない場合はご連絡下さい。

【変更例 4】

変更後

① <i>Serratia marcescens</i>			
薬剤名	MIC	B. P	カテゴリー
CFPM	8	2/16	D ※1
CAM	>4		* ※2
AZM	4		* ※2

変更前

① <i>Serratia marcescens</i>		
MIC	B. P	カテゴリー
16	8/32	I
>4	-/-	R
4	-/-	R



※1 SDD(用量依存的感性)が設定されている薬剤についてはカテゴリーに『D』と表記して報告致します。

※2 自然耐性(内因性耐性)をもつ菌の薬剤を測定した場合、自然耐性(内因性耐性)であることが分かるようにカテゴリーに『*』と表記して報告致します。

SDD (Susceptible Dose Dependent) 容量依存的感性とは

感性が薬剤投与計画(投与方法、投与量)に依存することを意味しています。つまり、推奨される薬剤投与計画よりも、より高い薬剤暴露となる投与計画を実施すれば、感性となります。